

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.17
平成25年12月2日

通学団の女兒（団長）に感心しました！

2日（月）の朝、登校指導を終えて市役所の交差点に戻って来ると、元区長のAさんが、「校長先生・・・」と話しかけてきてくださいました。Aさんは、毎朝、自宅近くを通る桜小学校の児童を見守っていてくださるそうなのですが、そのAさんから、ある通学団の女子児童のことでお褒めの言葉を頂戴しました。

「毎朝、団員が安全に歩行できるように注意を払いながら引率している。時々後ろを振り返りながら安全確認をして、低学年の児童への気配りをしている。なかなかできることではない。本当に感心な子です」と、何度も繰り返して褒めてくださいました。

早速、全校朝礼で紹介し、全校児童で誰かは分かりませんが、その子に拍手を贈りました。この子に限らず、他への思いやり、温かい気配りのできる子は、桜っ子にはたくさんいると思います。地域の方からの嬉しいメッセージでした。ありがとうございました。

全校朝礼の話より（12/2）

それでは、今日は初めになぞなぞを出します。

「明るい時は暗くて、暗い時は明るいものは、なんでしょう？」

M子：「電気です」

B男：「星です」

星もそうかもしれませんが、答は、電灯・街灯（でんとう・がいとう）です。

暗い外を明るく照らしてくれる街灯ですが、最近は節電で少し暗いかもしれませんね。そして、光るしくみは、時代によって変化してきました。

一番古いのが「ガス灯」です。130年くらい前に日本で初めて銀座というところでガス灯がつけられました。お料理で使うガスが燃えるときの光りを利用していました。次は電球をつかった物で、電球も家庭用の電球や水銀灯など、いろいろな種類があります。

一番新しいのは何というか知っていますか。

A男：「LEDです」

そうです、LEDと言います。みなさんもLEDという言葉、聞いたことがありますね。LEDは、発光ダイオードといって、電流が流れると光を出す（半導体）しくみです。電球と違って、あまり電力も使わず、熱もあまり出ません。省エネで長持ちします。赤色や緑色の発光ダイオードが約40年前に開発されましたが、青色の発光ダイオードを作ることはむずかしいとされてきました。研究者たちもあきらめたとき、20年くらい前に日本で、苦勞に苦勞を重ねて、開発されました。

三色のLEDができて、いろいろな色が出せるようになり、信号機でも使われるようになりました。桜小の近くにはLEDを使った信号機はまだないかも知れません。

また、「**青色発光ダイオードというのは鉄道事故の防止に役に立っている**」と以前の新聞に載っていました。大阪で32か所の踏切に青色発光ダイオードの照明灯を試験的に設置したところ、1年経過しても死亡事故がゼロとなったそうです。専門家は「**青色の光は人の精神を落ち着かせる効果があるとされ、事故（自殺）防止の観点からみても非常にユニーク**」と評価しています。

青色の照明灯は2000年、イギリスのグラスゴーという町で、景観改善のために導入したところ、犯罪件数が激減しました。日本でも防犯対策の街路灯として青色の街灯を導入するところが増えているそうです。

人間がたくさん研究して、人の役に立ち、人を幸せにするものを開発するのは、すごいですね。

校長先生は、みなさんがたくさん勉強することは、このような大切なものの開発につながると思っています。今は、勉強するにもよい季節です。みんなでたくさん本を読んで、たくさん勉強して、このような素晴らしい発明・発見をしましょう。

【学習発表会の感想】

「心ひとつに」を読みました。2年生の保護者からのメッセージが多かったですね。4年生も「挑戦」、皆、頑張っていたし、内容がすごく良くて感動しました。一人一人にセリフがあって、見ている親も、やっている子どもたちも、満足できる発表だったと思います。